

比での英語研修 県内校に広がり

八学グループ推進 集中学習、交流も

低コストが特色といい、同社によると、2018年は同法人系列の八戸学院光星高校のほか八戸高校がフィリピンに渡航。19年も県内の複数の高校や短大などが予定しているという。

(若松清巳)

研修先は、同法人およびHGGと連携協力協定を結んだフィリピンのCNEI国際語学学校。日本人も5人ほど駐在しており、利用する学校のオクターに合わせたさまざまな学習プログラムを準備できる。

学校法人光星学院(八戸市)の関連会社「八戸学院グループ」(HGG、本社同市、大谷真樹代表取締役社長)が手掛ける、学生向けの海外英語研修が県内で徐々に広がりつつある。内容の濃い学習プログラムと

旅行の一つとして設定した英語研修では、参加した生徒はCNEIでの英語授業に加え、現地の子どもたちに書道など日本文化を英語で教える体験もした。生徒からは「英語のコミュニケーション力が付いた」「勉強のやる気が出た」などの声が寄せられたという。



英語研修で訪れたフィリピンで、現地の子どもたち(左側2人)と書道を通して交流する八戸学院光星高の生徒たち(同校提供)



八戸高の生徒たちは英語研修で訪れたフィリピンで、小学生に折り紙を紹介するなどして交流した(同校提供)

八戸高校は同年12月、英語研修として初めて実施。参加を希望した生徒約15人が、10日間ほどにわたってCNEIでの集中授業、市街地での各種体験などによ

る英語力アップに取り組んだ。三上浩一郎教頭は「大谷社長は、英語での発信力を問われる例が増えている。研修費や研修費などコストも含めCNEIが研修先にびったりだった」と話す。

大谷社長は「HGGの語学研修は、教育周辺事業を手掛ける会社ならではのきめ細かいサービスが特徴。価格も10日程度の研修で1人十数万〜20万円弱で手頃と思う」と説明。「県内外の多くの学校などに、こうしたグローバル教育のプラットフォームを提供していきたい」と話した。